

幕末の旅費と遊興費

まへがき

金紋の先箱霞を縫うた大名行列、將軍の御茶壺にさへ土下座した幕府の盛時はともかく、西に響の音がした尊攘の幕末、所謂勘渡定格なる諸士の旅費手當が幾何であつたかと云ふことは、興味ある問題であらう。

廣重が繪に描いたやうな松並木を名物焼蛤の白煙、夢を一九の膝栗毛に載せて舊長州藩の記録を吟味して見よう。

(一) 京都、大阪、長崎勘渡定格

(親任待遇) 一門八家 上下拾八人

總計 三拾九貫九百九拾八匁四分

但山口より京都迄往來一日拾里步貳拾四日二割

卓抜な着想、平易な文章で
解く、防長維新史の問題点

限定五百部復刻

趣味の維新外史



安藤徳器著

マツノ書店

幕末お大名の生活

まへがき

英一蝶が「淺妻船」に諷刺した大公方や、十八大通の元祿時代はともかく、徳川將軍は家康の九妾を初めとして、由來千代田の大奥は閨門の抗争絶えなかつた。中興の英主吉宗すら「享保巷塵譜」の葛籐あり、文化文政の爛熟時代は、後庭に有平糖の橋を架けた大御所家齊が「俗紫田舎源氏」の二十一妾、五十五號、幕末の名君と謂はれた水戸烈公に三十餘人の兒女があつたのを見ても、御家騒動は上の行ふ所、下之より甚だしきはなしで、御大名の生活も亦さこそと首肯されるのである。然らば其の生活費古例格式はどうであつたか、と云ふ興味ある問題を的確なる史實に據つて記して見よう。

(一) 舊長州藩主一ヶ年の生活費

慶長の昔、朝鮮の捕虜姜沆が「看羊録」に「家康は關東より京都に至る迄、米を以て陸路を造

下田に於ける吉田松陰

海外密航失敗秘話と喰逃げ一件の経緯

冬知らぬ南伊豆、天城の山に吹雪しても仇浪寄する下田港は、赤い椿が咲き亂れて居る。維新文明の發祥地として唐人お吉に名高き下田は、古來情痴の港であつた。セビヤ色の斷崖に紫色の影を造つて、そり立つ常盤の松、岩を噛む白浪にハリスの眼を思はせる紺碧の海——ヒユツテクロフネの招牌は仄白く松林に照り映えて居る。

伊豆の下田に長居はおよし 縞の財布が空になる

と、謳はれた寢姿山から柿崎の海岸を玉泉寺へと出た筆者は、辨天の島がくれ行く吉田松陰の史實を探らんとしたのだ。お吉研究家として知られた村松春水翁に案内を依頼して、松陰の所謂七生説を検討した。が、筆者は翁の口から意外にも岡村屋喰逃げの一件を聞いたのであつた。

松下村塾、高杉・久坂・伊藤・品川・山縣等の明治の元勳を輩出した吉田松陰先生が、喰逃げをしたなどと云はうものなら、偶像化して居る防長人士はかんくんに怒るかも知れぬが、松陰と

『趣味の維新外史』の魅力



東行記念館学芸員 一坂 太郎

戦前、たった数年間だけ中央の文壇を縦横に疾走し、忽然と消えた安藤徳器という青年がいた。「歴史家」の肩書を付すべきか、あるいは「作家」「文筆家」「評論家」とするべきかは、その活動範囲があまりにも多岐にわたることから、一概には断じかねる。

徳器は山口県岩国市の出身で、はじめ軍人になるべく陸軍士官学校（三十六期）に学び、のち志を転じて京都帝国大学で維新史を専攻したという変わり種である。二十代から三十代にかけて歴史、芸能、時事問題、中国等に関する三十冊ほどの著作を残したにもかかわらず、いまや故郷山口県の文学史上においてすら、ほとんど忘れ去られようとしている。

ところで、長州藩主毛利家では明治初年からすでに藩政時代の膨大な史料の収集、編纂が進められていたことは、よく知られる。今日では山口県立文書館に「毛利家文庫」として架蔵されているその「宝の山」を見る時、我々は「防長回天史」などは巨大な氷山のほんの一角に過ぎないことに

気づき、ただ啞然とする外はない。実は徳器は、戦前の一時期、東京の公爵毛利家編輯所員として「宝の山」に潜り込んだことがある。当然、「宝の山」は徳器の若々しい知的好奇心を刺激するに十分だった。

その結果、昭和十一年に生まれたのが、「趣味の維新外史」である。毛利家編輯所蔵の文書史料や村田峰次郎ら古老の談話等を駆使しながら、人物、事件、政治、経済、医学、旅、女性、風俗等々、あらゆる切り口から長州藩維新史に迫った数々の研究が、この一冊に象眼のようにはめ込まれている。

これは、ひとりの青年学徒の「宝の山」探検記だ。だから目次を一見しただけで、歴史好きの読者なら胸の高鳴りを覚え、「読みたい！」という衝動に駆られるような本である。こんな本には、なかなか出会えるものではない。このたびマツノ書店から『趣味の維新外史』が復刻されるのを機に、徳器再評価の気運が地元山口県から芽生えんことを、切に祈る次第である。

目次

頼山陽をめぐる女性

- 一 山陽の母 梅麗夫人静子
- 二 山陽の先妻 御園淳子
- 三 山陽の戀人 江馬細香女史
- 四 玉蘊女史と九畹女史
- 五 後妻 梨影子
- 六 山陽と幾松、飛珊、雲井
- 七 山陽と袖笑、黄薇、美郷

梁川星巖と紅蘭女史

- 下田における吉田松陰
- 海外密航失敗秘話と喰逃げ一件の経緯
- シイボルトとトオデ

御殿山外館焼打真相

- 一 土蔵相模の会合
- 二 外人襲撃の企画
- 三 桶伏の一行
- 四 藤八拳の役割
- 五 かしくの釣
- 六 久坂、高杉の激論
- 七 下田屋騒動
- 八 流星光底逸長蛇
- 九 醉擁美人樓
- 〇 周布の首所望
- 一 血盟書
- 二 焼弾の作成
- 三 御殿山外館焼打

幕末藩政物語

- 一 水戸の巻
- 二 長州の巻
- 三 岩国の巻
- 四 米沢の巻
- 五 薩州の巻
- 六 長岡の巻
- 七 兩毛の巻

維新志士活動の資源

- 一 馬関の経済的地位
- 二 馬関越荷方の利潤
- 三 馬関遊里の発達
- 四 民間献金と銃艦購入
- 五 馬関開港説と統一論
- 六 志士遊興費の出所
- 七 結論

幕末お大名の生活

- 一 奮長州藩主一ヶ年の生活費
- 二 浅野長動侯の懐奮談
- 三 鯨海酔侯山内容堂

お留守居役の話

- 古老旅の思ひ出話
- 一 政策のあつた五十三次
 - 二 立場茶屋
 - 三 赤坂一ツ木
 - 四 三度飛脚
 - 五 槍持たぬ武士手形出せ

- お雇外人物語

鉄道開通物語

- 本邦軍靴・軍糧考
- 軍靴の起り
- 食パン軍糧

唐人お吉の珍文献

- 吉原大門の懐古
- 一 大門の起源
 - 二 大門高札の変遷
 - 三 大門の通行
 - 四 大門の題字は福地桜痴居士書

大久保利通功罪史

- 一 征韓論と甲東
- 二 ファッショ政治
- 三 大久保暗殺
- 四 甲東の趣味
- 五 大久保の功罪

木戸孝允功罪史

- 一 翠光院松子夫人と今井似幽
 - 二 家系と性格
 - 三 練兵館塾長と村田藏六
 - 四 丙辰丸成破の盟約
 - 五 桂小五郎毒薬所望
 - 六 薩長鴻門の会
 - 七 九門の戦
 - 八 薩長連合と長州征伐
- 装幀 福田豊四郎画伯

安藤徳器ノート(其の二) 一坂太郎

■「山口県史料」の復刻を仕事としているのに、こんな本があることを知らなかった私ですが、一坂太郎氏のおかげで、長く忘れられてきた異色の郷土史家を発掘することができるのは、出版者冥利につきる思いです。

■先におこなった「復刻希望アンケート」でも本書を持っている人は県内では皆無でした。今回の復刻版は、この稀覯本を入手する最初で最後のチャンスかと思えます。

■本書の原本はB6版ですが、復刻に際し読み易さを考えてA5版に拡大しました。また、専門家にも初心者にも読まれる本なので、特価八千円にしたいところを、お求めやすいように六千円に抑えました。

■この復刻版は本誌「マツノ通信」と同時発売なので、もしご注文が多くても刷り部数の調整は不可能です。早めにお申し込み下さい。

(店主敬白)

■体裁 A5判四〇〇頁 上製貼箱入

■定価 七、〇〇〇円(〒450)

■特価 六、〇〇〇円(〒450)

■特価締切 平成十一年十月末日

■限定五〇〇部復刻(番号入)

徳山市銀座二の一三 マツノ書店
☎〇八三四(四)二九五